



外浪逆浦を通る大船団



鰐川橋と付近の堤防に多くの人が集まった



氏子総代には、文
 のもとで務めさせ
 の皆さんのご協力
 の命を受け、多く
 ら息栖神社先導船
 た。「鹿島神宮か
 田さんに聞きました
 としての思いを猿
 ついて、氏子と
 今後の継承に
 せてくれました。
 ます」

よかった」と、感激の表情を浮かべる皆さん。今回が初めてという人もいれば、12年前に潮来河岸まで見物に行った人や、前日に鹿島神宮で勅使参向例祭を見てきた人もいて、それぞれが御船祭への思いを語りながら余韻に浸っていました。

します。堤防はもとより鰐川橋にも鈴なりの見物客。遠くに先導船が見えると、これから目の前で繰り広げられる歴史絵巻への期待が高まります。華やかな飾り付けを施した大小の船が川面を彩り、極彩色の龍頭を飾り付けた御座船が圧巻の存在感を放ちながら悠々と進んでいきました。大船団は、鰐川から北浦・外浪逆浦を経て香取市加藤洲まで約2時間かけて巡航し、御座船の船上で香取神宮の宮司が祝詞をあげる重要な神事「香取神宮御迎祭」をおこないました。

地域の伝統を次代へつなぐ
 息栖神社は御船祭について、「御神輿(神)が鎮まっておりますので、一生懸命に奉仕しました。鹿島神宮の式年祭が長く続く限り、息栖神社も継承してまいります」と言葉を送ってくれました。

神栖ディスカバリーを
カミスマカ
でも楽しめる

「神栖ディスカバリー」を、神栖市魅力情報発信ポータルサイト「カミスマカ」でもご覧いただけます。紙面で紹介しきれなかった情報やコラムなど、オリジナルコンテンツも掲載しています。ぜひご覧ください。



化・伝統を次世代に伝えていく役割があります。氏子の皆さんは昔の記録や記憶に頼るだけでなく、先人の思いを言葉のように魂に刻んできたのではないかと思いますし、そうして何世代も伝わっていくものと信じています」



息栖神社前の常陸利根川を巡回する先導船



大正から昭和初期の息栖河岸



息栖神社前の船だまり



堤防に集まった市民が手を振って見送る

当日が近づいて使用する船や接岸場所が決まると、総代全員で飾り付けをおこないます」
 御船祭の伝統を大切にしてきた中でも、昔と今で変化したことはあるのでしょうか？
 「昔は、常陸利根川での漁業や中洲での農業が盛んで、先導船の周囲にたくさん漁船や田船が集まって見送りをしてくれたと聞いています。今では船を所有する方が減ったことに加え、航路や船の大きさなどの規定も厳しくなったので、そのような見送りはできなくなりました。また、前回(12年前)は大船津から先導船に乗船し出発したため、神栖市の皆さんに披露する機会がありませんでした。そこで今回は、息栖神社前の常陸利根川を巡回するコースをとれるよう、鹿島神宮に前もってお願いしました。先導船に乗船するのは、息栖神社の宮司さん、総代、ほか関係者など合計12人です」
 猿田さんに御船祭の思い出話を聞いたところ、驚きのエピソードが飛び出しました。
 「実は、私の父も36年前に氏子総代として先導船に乗船しております。氏子総代の順番が回ってくるのは一生

市民に見送られ
 先導船の大役を務める
 御船祭は、9月1日に鹿島神宮に天皇陛下の御遣いである勅使を迎える勅使参向例祭から始まり、2日には陸路と水路を合わせて約31キロメートルを、神様と共に大行列が巡幸します。息栖神社では、午前3時に関係者が集合して装束に着替え、その後先導船に乗り込みました。一方、息栖神社前の常陸利根川堤防には、市民が続々と集まってきました。午前6時、先導船が常陸利根川をゆっくりと北上し、堤防前で大きく旋回して市民の見送りに応えます。1周目、2周目と、船上と堤防で互いに手を振り合い、最後の3周目には「行ってらっしゃい」の声が上がります。拍手が起こりました。およそ15分間の見送りに、「12年に一度のことだから、先導船を見ることができて